

Feasibility of Pooled One-step Nucleic Acid Amplification for Molecular Staging of Pathologically Node-Negative Colon Cancer: A Prospective Multicenter Study

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 谷, 公孝 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00033244

主論文の要旨

Feasibility of Pooled One-step Nucleic Acid Amplification for Molecular Staging of Pathologically Node-Negative Colon Cancer: A Prospective Multicenter Study

(リンパ節転移陰性結腸癌の病期分類に対する OSNA プール法 (pOSNA) についての多施設共同前向き研究)

東京女子医科大学 炎症性腸疾患外科

(指導: 板橋 道朗教授) ㊞

谷 公孝

Annals of surgical oncology 2021 <https://doi.org/10.1245/s10434-021-10140-9> (令和3年発行) に掲載

【要 旨】

病理学的にリンパ節転移が陰性の結腸癌 (pNNCC) の微小リンパ節転移の検出法として OSNA 法の有用性が確認されている。しかし、従来の OSNA 法 (cOSNA 法) は、手技が煩雑で高価であり臨床応用が課題とされてきた。我々は OSNA プール法 (pOSNA) を考案しその実用性について検討を行った。手術で摘出した腸管傍リンパ節を半割し、単一の試験管にプールし OSNA 解析、他方の半割リンパ節は HE 染色による病理学的検査を行った。pNNCC 症例における pOSNA 陽性率を病理学的所見と比較して検討した。92 例 (pNNCC 66 例) を解析対象とした。摘出リンパ節は平均 24.3 個、pOSNA 解析リンパ節は平均 6.9 個であった。病理診断との一致率、感度、特異度はそれぞれ 89.1%、84.6%、90.9%であった。pNNCC 症例の pOSNA 陽性率は 9.1% (6/66 例)、偽陰性率 15.4% (4/26 例) であった。結腸癌では stage migration の予防のため 12 個以上のリンパ節をすることが推奨されている。cOSNA 法では解析リンパ節と同数の検体解析が必要で 1 対 1 対応とする手技が煩雑で高価である。pOSNA は 1 本の試験管に複数リンパ節をプールして解析、測定試験管は 1~2 本であり 1 回の測定で終了する。そのため、保険適応範囲内で施行可能である。また、実用化されれば病理医の負担を軽減することができる。本研究では、微小リンパ節転移陽性率は 9.1%、既報と比較してやや低値であったが有意差は認めなかった。pOSNA は、cOSNA を用いた既報と同等の陽性率を示し、実臨床における OSNA 法応用の可能性が示唆された。